

# “ご存知ですか、保育サポーター”

～ 応援します！ 仕事と家庭の両立 ～

少子・高齢化が進む現在、仕事と家庭の両立をしながら働きたいと願う人が増えています。子育てをしながら働きたい人を支えバックアップする事業として「保育サポート事業」があります。

## こんな時、「フレイフレ・テレフォン」に電話してみませんか。

- ① 残業で保育所のお迎えに間に合わない
- ② 産休や育休が終わった後、保育所等の預け先が決まるまでの間みてほしい
- ③ 就職活動の時みてほしい
- ④ 子供の軽度の病気、保育所等の休日に、臨時的に子供をみてほしい

(保育内容・料金等は当事者間で相談)



保育サポーターは子育て経験のある方や保育士資格をもつ方で、(財)21世紀職業財団の「保育サポーター養成講座」を修了し、財団に登録している人です。(諏訪市の登録者17名) 全員が万一の事故に備え「保育サポーター補償保険制度」に加入しています。

### 【問い合わせ先】

フレイフレ・テレフォン長野  
026-232-2020



月曜から金曜日(祝日を除く)午前9時30分から午後4時30分  
厚生労働省(財)21世紀職業財団 長野事務所

### ☆ 保育サポーターさんからの一言

諏訪市湖岸通り5 守屋 輝代さん

「子供が好き、子育ての経験を生かしたい、若いお母さんたちの力になりたい」と、21世紀職業財団の保育サポーターの講習会に一週間参加しました。サポーターとしてお子さんを預かるようになってみて、私も3人の子育てをしましたが、その時とは別の体験があり、幼いお子さんやその親に接することにより新しい発見もあります。

現代の母親を取り巻く状況は多様で、さまざまな価値観、事情を背負っています。相手の考え方も考慮しながら、保育サポーターの活動をしていきたいと思っています。

### 編集後記

「おんばしら大好き」の特集はいかがでしたか。インタビューした時、二人のいきいきした表情が印象的でした。お二人の活躍は、今後、私たちに夢と希望を与え続けてくれるでしょう。

次の御柱まで6年。あなたもチャレンジしてみませんか……。



左：宮野さん  
右：竹内さん

▲小池さん

総合福祉センター「湯小路いきいき元気館」

## 感謝の気持ちで2人3脚

### 主な内容

2・3面

おんばしら大好き！  
夢をかなえた晴れ舞台

4面

ご存知ですか、保育サポーター



7月3日に「男女共同参画週間フォーラム ～ともに“いきいき”女・男～」を開催しました。それぞれの生き方、家族の在り方を尊重しながら、日々いきいきと暮らしているお二人のパネラーをお迎えして自分らしい生き方について考えました。

宮野孝樹さん(前市福祉部長)は、家事全般を50%に分け合い共働きをしてきました。家事も育児も自分がやることで、相手の立場や気持ちが理解でき、相手に感謝して『ありがとう』と言えるようになったといいます。また家事は自分自身のためでもあり生活の自立ができれば、生きやすくなるかと話されました。

竹内敬衣子さん(スタジオ・ビーチハウス代表)は、生涯ダンスを続けるためにスタジオを設立。高校教師の夫と二人の子供の生活で多忙な毎日を送っています。家事をしながら仕事に行く夫に感謝し、『ありがとう』とよく言うそうです。

コーディネーターの小池喜代さん(前県男女共同参画専門員)からは、「共同参画のキーワードは、自立と共生にある。男も女も生活の自立、精神的・経済的自立が必要」と助言をいただき、自分なりの生き方について問い直すことができたフォーラムでした。



# おんばしら大好き！ 夢をかなえた晴れ舞台



## プロフィール

荻原 梓さん

信州大学大学院教育学研究科  
在学中  
後楽園女子アイスホッケー  
クラブ所属

## “2004” 御柱祭で活躍した お二人に直撃インタビュー

### ○ 建御柱に乗った経緯、きっかけは？

根っからの御柱好きな家庭に育ち、当然のように御柱が大好きになりました。かつては女性が柱に近づくことさえ許されなかったと父親から聞いており、現在もその流れは残っていますが、「自分は御柱が大好きなので、どんどんやって行きたい」という思いもあって、自分の中に葛藤がありました。前回の御柱で岡谷市の女性が乗ったのを見て、「今回はぜひ自分も参加して建御柱に乗りたい」と気持ちを父親にまず伝えました。氏子会の一員として準備の段階から声を掛けてもらい、元綱、追掛綱、柱にも乗り、ごく自然の中でやらせてもらいました。

### ○ 大変だなと思ったことは？

自分は一人の氏子として、精一杯頑張るという気持ちでしたが、御柱の伝統というものがある中、自分が参加することで、周りの方々にご迷惑がかかるのではという心配がありました。

### ○ 今後への思い

男女を問わず、やる気があって、御柱が好きな人たちが携わっていける祭りであってほしいと思います。各々が、主張し意見を取り入れてくれる場所があることも大切です。

伝統や文化は大事なものですが、一方、時代にあった形で変わっていき、新たな伝統が築かれて行くのも一つの方向ではないでしょうか。

### ○ 男女共同参画についてどう思われますか？

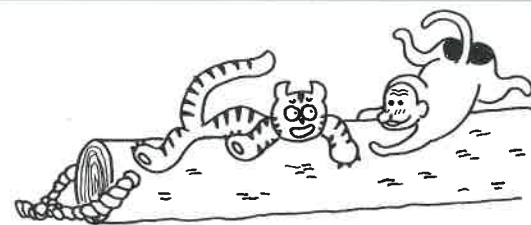
自分は今まで女性ということで差別を受けてきたとは思っていませんが、御柱を通じて多くの方々と知り合い、様々な活動があることを知りました。

### ○ 今回参加しての感想は

平成16年のこの日を生涯忘れないと思います。気持ちはいいし、これだけやりたかったことが出来たことばうれしかったです。今までの人生で最高の経験だったと思います。自分を理解し受け入れ、応援して下さった方々に感謝しています。



(信濃毎日新聞社提供)



### ○ 木遣りを始めた経緯、きっかけは？

父親の影響です。御柱が大好きで、子供の頃は地域の子供たちに木遣りを教える父親について行ってやっていました。本格的に始めたのは、平成4年の御柱の時、地区の子ども木遣りを教えるようになったのがきっかけです。親子で地区の木遣り大会に参加し、息子は入賞、私は賞に入らず悔しい思いをしました。前回初めてコンクールに参加し最優秀賞をもらいました。子ども木遣りを教えていなければ、今木遣りをやっていなかったと思います。

### ○ 中洲・湖南地区の御柱だけは女性が乗ってはいけない？

今回の木遣りは脚立の上からやりましたが、男女平等といっても千二百年の歴史ある祭りですから、他の柱は別にして中洲・湖南地区はそういう伝統があってもいいと思います。

今回は伐採の始めから参加することができ、すごく感激しました。下社の御柱では、秋宮一の建御柱に荻原梓さんが乗り、格好良く見えましたね。



今日も小宮の森から竹森さんの木遣りの声が響いています・・・



## プロフィール

竹森 笑子さん

諏訪大社御柱祭木遣り日本一コンクール上社の部において2年連続最優秀賞を受賞。各種イベント、ボランティア等で活躍中。

### ○ 大変だなと思ったことは

木遣りは精神的にも肉体的にも、ベストの状態でなければいい木遣りはできません。風邪を引かない、腰痛にならないなど体調管理に気を付けています。またできるだけ毎日声を出すように心掛けています。

### ○ 木遣りを長く続けていくための秘訣は？

家庭においては夫が一番の理解者です。時にはやさしく、また厳しくもあるよき応援者です。自己反省をしながら一歩ずつ切磋琢磨することが長続きの秘訣です。

### ○ 今後への思いは

優勝しようと言うのではなく、自分が納得できるいい木遣りをしたいですね。私のめざす木遣りは「人の心に響く木遣り」です。木遣りを諏訪の伝統文化として、いろいろな場面で引き継いで残していきたいと思っています。

木遣りを頼まれたら何処でも行きます。木遣りで人生がどんどん広がっていくという感じです。